

金子みすゞ

つゆ

だれにもいわずにおきましょう。

朝のお庭のすみっこで、

花がほろりとないたこと。

もしもうわきがひろがって

はちのお耳へはいったら、

わるいことでもしたように、

みつをかえしにゆくでしょう。

金子みすゞ

芝草

名は芝草というけれど、
その名をよんだことはない。

それはほんどにつまらない、
みじかいくせに、そこら中、
みちの上まではみ出して、
力いっぱいきんでも、
とても抜けない、つよい草。

げんげは紅い花が咲く、
すみれは葉までやさしいよ。
かんざし草はかんざしに、
京びななんかは笛になる。

けれどももしか原っぱが、
そんな草たちばかりなら、
あそびつかれたわたし等は、
どこへ腰かけ、どこへ寝よう
青い、丈夫な、やわらかな、
たのしいねどこよ、芝草よ。

金子みすゞ

ばあやのお話

ばあやはいれきり話さない、
あのおはなしは好きなのに

「もうきいたよ」といったとき、
ずいぶんさびしい顔してた。

ばあやの眼には、草山の、
野ばらのはながうつつた。
あのおはなしがなつかしい
もしも話してくれるなら、
五度も、十度も、おとなしく、
だまって聞いていようもの。